

Siemens Future Vol. 17

ヘルスケアソリューションの情報発信誌 ● シーメンス・フューチャー

Volume17・09/2009

SIEMENS



Report

SOMATOM 研究会報告

SOMATOM 研究会は、シーメンスCTユーザーの先生方が中心となり、CTの基礎講座から日常の運用方法、撮影・画像処理の工夫など、さまざまな情報交換が行われている研究会です。施設を超えた交流もこの会の大きな目的のひとつであり、現在は関西、関東、中部の各地域で研究会が発足して運営されています。

5月16日には第2回中部SOMATOM研究会（名古屋）、6月27日には第16回関西SOMATOM研究会（大阪）、7月17日には第15回関東SOMATOM研究会（東京）が開催されました。各研究会とも多くの参加者と興味テーマにて発表、討論が行われ盛況な開催となりました。

本項では名古屋ハートセンターのハートホールにて開催された中部SOMATOM研究会についてご紹介いたします。

名古屋ハートセンターは“SOMATOM Definition AS+”（128-Slice Configuration）をご使用中の2008年10月に開院したばかりの新しい施設ですが、循環器専門医療施設として24時間365日心臓救急に携わる施設であるとともに、豊橋ハートセンターの関連施設としても有名です。

まずは教育講演として、第1回に続き中津川市民病院の丹羽先生よりCT画像の画質評価について、続いて名古屋市立大学病院の西脇先生よりz-UHRに関してのご講演をいただきました。続いて当社よりSOMATOM Definition Flashと、心臓CTにおける基礎内容をご紹介しました。最後には特別企画として心臓CTのライブを実施いたしました。

特別企画のライブでは名古屋ハートセンターの川合先生とハートクリニックさわだの渡邊先生により、それぞれご用意いただいたRaw Dataをお互いに交換し、まずは映像と音声で会場とつないだCT室から位相決定と画像再構成を行っていただきました。お二人ともはじめて扱うデータであったことが、より一層ライブの臨場感を高めました。その後会場に移動し、当社のワークステーション“MMWP”（Multi Modality Workplace）を用いて画像処理を行っていただきました。お二人には日常のワークフローどおりに処理を行っていただくと同時に、処理を行ううえでのポイント、どのような画像を提供しているのか、また操作に関するテクニックまで、わかりやすく丁寧に説明いただきました。

参加者は80名を数え、基礎から臨床まで多岐にわたったテーマは参加された皆様に大変好評で、早くも次回の研究会を待ち望む声もあがり、SOMATOM CTと臨床現場におけるCTの必要性について再認識していただきました。



CT検査室からのライブの様子



Raw Dataから位相決定と画像再構成を行なう様子（右）と操作画面（左）